

平和への思い

読谷中学校

二年

新垣

月乃

「おはあたち時代はこんな面白い物なにもなか。ただよ。いまのあんな達は贅沢だよ。」

「こんなにくさ人のお店もなか。たさあ。」

「戦争は今でも終わらないわ。」

そのおはあの言葉で私は

「なぜ戦争は消えぬいのだらうか。」

「なぜ戦争は起るのだらうか。」と思い沖縄戦

### 読谷中学校

について深く調べてみることにしました。

千九百四十五年四月、沖縄にアメリカ軍が

上陸しました。嘉手納、北谷そして糸島の住

んでいるこの読谷村にわたる海岸が無数の艦

船と上陸艇で埋め尽くされました。船とその

水飛沫で海が見えないほどだったといひます。

米軍全兵力は四十五万人。そして上陸部隊

は十八万人。空母や戦艦などの大型の船が百

七の隻というような大部隊で、これは米軍に

とつても最大規模の上陸作戦でした。このほ

げしい戦いが三ヶ月におよび、約十二万人もの人々の命がうばわれました。また、私達と同じ年ごろの中学生や女学生を含む多くの県民が守備隊に配置されるなど激しい戦闘に巻き込まれました。戦争が長びくにつれ当時は食料不足で毎日おなかをすかしていたろうです。もし、私がこの中の一人だ、たら生きていたか分からないと思います。

こうや、て私達が毎日学校へ行き、給食を食べ、帰れば家があり家族がいる。そんな幸せな日々をおく、ていても私達の知らない世界のどこかの国では戦争が起つていて、何百人もの犠牲者を出しているのです。

### 読谷中学校

戦争とは、国と国が武力を使って争うことですが、なぜ関係のない人々までもが命をたたなければならぬと思いますか。戦争に勝つたら、平和が訪れたなら、この世はなにか関係のない人々達は救われるのでしょ。うか。戦争をしない国でも、人は七く存つていくのです。今、戦争をしている国は、どれだけの

家族が涙を流しているのだろうか。それでも  
はお。戦争という二文字の言葉は消えたい。  
人を殺す、きずつけるだけでは何も生みださ  
ない。と私は思います。  
そして、おばあが言うように、今の私達は  
一校決、だと思いません。  
おいしいごはんを食べ、ほしいものが買え  
る、自分のやりたいことができる。これらは  
世の中が平和だからだと思えます。でも、平  
和なのかな。という部分もあります。たとえ

読谷中学校

ば、毎日見ているニュースやラッオを聞いて  
いると、殺人事件、今だに続いている沖縄の  
基地問題、これらを考えみると、平和なの  
かな、と思つてしまいます。

私がつり平和とは、世の中、争い事がなく  
みんなが豊かに暮らせることだと思えます。  
そう思つていても、現実にはそういきません。  
でも、もつともつと国どうしが話し合いで解  
決して戦争がなくなるのであればたくさんの  
時間を使つても戦争という言葉をなくして

ほしいです。

人間一人一人が変われば今の世の中はも  
っともつと変わる事ができると私は思いま  
す。

私達は戦争の怖さを知らない。

だからこそ私達の知っている戦争の事を  
多くの人たちに伝えたいこうと思う。

読谷中学校